

平成19年度 国際審判員 海外派遣報告書

| | | | |
|---|--|---|--------------------------------|
| 1 | 派遣事業名 U-21 FIBA World Championship for woman | 2 | 派遣期日 平成19年 6月27日～ 7月10日 (14日間) |
| 3 | 報告者名 中嶽 希美子(千葉県) | 4 | 派遣先 モスクワ (ロシア) |

| | | | |
|------------------------|---|------|--------------|
| 5 大会概要 および 大会結果 | | | |
| 大会名称 | U-21 FIBA World Championship for Woman | 大会期間 | 6月29日～ 7月 8日 |
| 大会内容 | | | |
| 参加国 (グループA) | ベルギー カナダ 中国 フランス マリ ロシア | | |
| (グループB) | オーストラリア ブラジル ハンガリー 日本 スペイン アメリカ | | |
| 大会結果 | | | |
| (総合順位) | 優勝 アメリカ 準優勝 オーストラリア 3位 フランス 4位 ロシア ベルギー ハンガリー カナダ ブラジル スペイン 日本 中国 マリ | | |
| (グループA順位) | フランス ロシア カナダ ベルギー 中国 マリ | | |
| (グループB順位) | アメリカ オーストラリア ハンガリー ブラジル スペイン 日本 | | |

| 6 大会参加審判員ならびにコミッティー | | | | | | | | | | | |
|----------------------------|------------------------------|--------|-----|-----|-----|----|-----------------------------|--------|-----|-----|--------|
| No | Name(Mr/s.) | Natio. | Age | F/D | A/N | No | Name(Mr/s.) | Natio. | Age | F/D | A/N |
| 1 | Mr. Lubomir KOTLEBA | FIBA | | | | 13 | Mrs. Nezha HANAFI | MOR | 43 | F | |
| 2 | Mr. Kak Kuan LEE | MAS | | | | 14 | Mr. Raoul Andrew KIRSTEN | AUS | 37 | F | |
| 3 | Mr. Emir TURAM | TUK | | | | 15 | Ms. Brenda MATEO ROSADO | PEL | 29 | F | |
| 4 | Mr. Anibal GARCIA | FIBA | | | | 16 | Mr. Sergey MIKHAYLOV | RUS | 30 | F | |
| 5 | Mr. Reuven VIROVNIK | ISR | | | | 17 | Mrs. Kimiko NAKADAKE | JPN | 33 | F | |
| 6 | Mr. Robinson ARACENA VASQUEZ | DOM | 32 | F | | 18 | Mr. Rüstü NURAN | TRK | 30 | F | |
| 7 | Mr. Atanu BANERJEE | IND | 33 | F | | 19 | Mr. Fernando Serpa OLIVIERA | BRA | 38 | F | |
| 8 | Mr. David CHAMBON | FRA | 33 | F | | 20 | Mr. Longsheng QIAO | CHI | 42 | F | |
| 9 | Ms. Elena CHERNOVA | RUS | 34 | F | | 21 | Mr. Tolga SAHIN | ITA | 37 | F | |
| 10 | Mr. Serge DE COSTER | BEL | 46 | F | | 22 | Mrs. Dawna TOWNSEND | CAN | 39 | F | |
| 11 | Mr. Aleksander GORSHKOV | RUS | 44 | F | | 23 | Mr. Milija VOJINOVIC | SRO | 30 | F | |
| 12 | Ms. Felicia Andrea GRINTER | USA | 38 | F | | 24 | Mr. Jakub ZAMOJSKI | PLO | 35 | F | |
| | | | | | | | | | | | F=FIBA |

| 7 担当したGame(スタンバイ含む) | | | | | | |
|----------------------------|--------|--------------------------------|-----|-----------|-----------|-----------------------|
| No | 期日 | 対戦カード | R/U | 相手審判 | | ゲーム 雑感 |
| 1 | 6 / 29 | MARI/BELGIM | U2 | GORSHKOV | GRINTER | ベルギーのシステムオフェンスが機能した試合 |
| 2 | 6 / 30 | CANADA/ CHINA | U2 | NURAN | GRINTER | 中国が全く機能せずカナダが圧勝 |
| 3 | 7 / 1 | HUNGARY/USA | U2 | TOWNSEND | DO COSTER | アメリカ、インサイドを生かし圧勝 |
| 4 | 7 / 3 | R U S S I A/ M A R I | U1 | DO COSTER | QIAO | 大量得点差でロシアの勝利 |
| 5 | 7 / 4 | R U S S I A/ F R A N C E | U2 | TOWNSEND | NURAN | 予選全勝同士、大接戦でフランスの勝利 |
| 6 | 7 / 6 | A U S T L A R I A/ C A N A D A | U1 | DO COSTER | BANAGEE | 決勝ラウンド初戦 オーストラリア快勝 |
| 7 | 7 / 7 | R U S S I A/ U S A | U2 | ZAMOJSKI | NURAN | 準決勝 大声援も虚しくアメリカが勝利 |

| | |
|---|--|
| 8 審判会議・その他ミーティング等内容 | |
| <p>コトレバ氏より、代表者会議で監督に伝えることとして ファウル後に集まって話をしない ボールを支え持つことは、トラベリング(一貫性が無くなるので、あまり過敏でなくてよい)</p> <p>ダビドフ氏より ドリブル(支え持つこと) 3秒(一貫性など) Control of the Ball(いつから?) U-Foul</p> <p>アンニバル氏より 3パーソンメカニクについて オフェンスファウルの時、宣したレフリーの移動位置の徹底 リードが最後の局面だけ逆に移動したら、元のサイドのトレイルに入る</p> <p>ルーヴェン氏より 審判のフィソロジー Feel of the Game</p> <p>その他(コトレバ氏より) ゲームの1時間半前にホテルを出発、クルーで行くか、チーフ(主審)が動向を把握する。 スタンバイはいないので怪我などがあつたら2人で続ける。 レフリーシャツ等、キャリアバックの支給がありました。</p> | |

9 審判技術・判定基準等に関すること(受けたアドバイス・NT審判の感想なども含めて)

大会中の審判全体ミーティングで言われたこと

トラベリング いつコントロールしたのが、成立していないのに取り上げるケースがある。
ショット時のファウルの見極め、フリースローにしていないケースがある。
大きい選手のプレイについて、体の大きさも考慮しなければならない
ゴール下のショットでファウルとして取り上げなくてもよいケースがある。
タイムアウト50秒経過後、両サイドの審判がベンチを促しコートに出させる。
また、50秒経過しなければコートに戻らせないことを徹底させる。
トレイルが制限区域でのプレイにペネトレイトする
T・Cがフリースローライン付近のプレイを同時にコールをするのはあまり望ましくない。
LとT、LとCが望ましい。なぜなら6つの目でボールを見ることはあまりよくない。

個人的に受けたアドバイス

特にゲームの最初に自分も笛を吹かなくてはならないプレイがある。
基本的なメカニックについて(特にリードの移動の決断はもっと早くする。何もなくても、またそこからはじめればよいので心配する必要はない)

10 全体の感想および提言等(チーム・選手・観客等も含む)

今大会は、21歳以下ということもあり、選手の中にはナショナルやプロで活躍しているプレイヤーから、学生主体のチームとさまざまでしたが、どのチームにもカラーがあり、大変興味深く試合を見ることができました。その中で日本もチームカラーを出し健闘していたように見えました。審判団からも、スピードが速いという声も聞かれましたが、ショットの調子が悪かったこと、やはり、体格の差が大きかったように感じました。観客はまばらでしたが、地元ロシアのゲームになると超満員になり、大声援と相手に対するブーイングはとて大きかったです。幸い、私は3試合ロシアのゲームを吹くことができ、大歓声の中でいかに基本に忠実にコートで表現することが大切さを感じることができました。

今大会、一番多く言われていたことは、グットノーコールがゲームを良い方向へ導くということです。そのためにはグットコールも必要ですが、ゲームの流れを感じる大切さを改めて認識できました。

私にとって初めての国際大会でしたが、ジャッジについては特に大きく意識することもなく、日本でご指導頂いてきた方向性の正しさを改めて認識できました。ゲームの流れを感じるという部分では、ゲーム中に他の2人と確認しあい基準を修正したり保ち続けることができたと思います。また、初めて公式戦での3パーソンシステムで、ローテーションなどで戸惑う部分もありましたが、仲間の助けもあり問題なく終えることができました。

大会は、先手を取られてもインサイドを生かし、安定した強さを見せたアメリカが優勝、続いて高さを生かしたオーストラリア、3位にはナショナルでも活躍する選手が多いフランス、4位の地元ロシアは強さを見せながらも結果を出せませんでした。また、ベルギーやブラジルは高さはあまりないもののドライブなどから展開する攻撃が特徴でした。アフリカ代表のマリは、ホテルに帰る途中バスが交通事故に遭い、選手が5人骨折などの負傷を負うというハプニングもありました。また、大会中選手の怪我が多く、次の日には松葉杖を使っている選手が各チームにいました。

大会を終え、まずはこのような機会を与えてくださった日本バスケットボール協会規則審判部の皆様に感謝の気持ちで一杯です。これまで、国内でご指導いただいた数々に違和感を感じることなくできたことは、大会中常に自信になりました。日本に対してはこれまでの先輩方のご活躍のおかげで、とても友好的な印象を持っていただいていたいました。また、ロシア協会の皆様には、期間中本当に親切にサポートをしていただきました。

今回集まった審判は同世代(30代)が多く、19名のうち女性が6名でした。また、WNBAやユーロリーグで活躍している人も多く、色々な話を聞くことができ、コート以外でもたくさんの刺激を受けることができました。この経験を生かしながら自分自身のレベルアップにつなげると共に、日本のレベルアップの為に微力ながら更に努力して参ります。ありがとうございました。

(2/2)

